

開催日:平成16年12月10日

会議名:平成16年 文教市民委員会

■ 学童保育室の指導員体制と保育時間

橋本紀子議員

おはようございます。今回、社会教育で青少年育成ということで、学童保育室が整備されます。これは従来待機児問題がありまして、いろんな方面から強い要望がありましたけれども、なかなかハードルが高くて解決に向かわなかったんですが、それについて大きなご努力をいただきまして、増室をするということについては大変大きな成果ですし、うれしいというふうに思っています。しかし、これで全部解決したわけではありまして、まだ幾つか残っている校区もございますので、就労支援としても早急に待機児解消に向けてご尽力をいただきたいと思っております。そこで、学童保育について、現行の状況をお尋ねしたいと思っておりますけれども、現行では学童保育室の指導員体制と保育時間はどのようになっているかお教えいただきたいと思っております。

北元青少年課長

現在の学童保育室の指導員体制と保育時間についてでございますが、指導員体制は、配置基準を定めておりまして、児童数が50人までの学童保育室につきましては指導員1名とアルバイト1名、児童数が51人から55人までの学童保育室につきましては指導員2名、児童数が56人から60人までの学童保育室につきましては指導員2名とアルバイト1名の体制となっております。また、保育時間でございますが、条例施行規則によりまして、長期休業日等を除きまして、平日は午後0時45分から午後5時まで、土曜日は午前9時から午後5時までとなっておりますので、よろしくお願いたします。

橋本紀子議員

保育時間のことについてご質問を重ねてさせていただきたいと思っておりますが、ことしに入ってから、1月から振り返ってみますと、本市でも学校の安全を脅かす事件、あるいは児童にかかわって、幾つかの事件がありました。さらに最近では、奈良県の連れ去り殺人といえます大変痛ましい事件も未解決のまま残っております。そういった意味で、学校とか放課後の児童の安全については、今なお多くの保護者、市民が関心を持っているといえますか、不安を持っておられると思っております。そのために、集団登下校や保護者の送迎、それから地区委員を初め、地域の方々の多くの皆さん方のボランティアなどによって、立ち当

番も今なお日常的に行われています。このような状況下では、とりわけ留守家庭の、またさらに低学年の保護者の方々の不安というのは大変大きいものがあると思っています。また一方で、学童保育室の入室希望が大変多くなっていますが、しかも大変切実であるという理由の1つに、このような子どもたちの安全の問題があるというのは言うまでもないことだと思います。学童保育室に入室しています児童の皆さんは、ほとんどが5時の最終時間までそこで過ごされていることが多いわけですが、この冬のときは特にですけれども、外が暗くて危険な場所もたくさんあります。実際、私もある保護者からご相談を受けまして、通学路を歩いてみましたけれども、家があっても人通りがないところとか、あるいは、ところによっては駐車場だけで、街灯だけでほとんど人通りがないというようなところも通学路指定になっているわけです。夕方そういった状況では怖いと思わざるを得ない場所もございました。それで、最終時間が5時では圧倒的に多くの保護者の方が学童保育まで迎えに行きたくても無理な状況にあります。そこで、最近の学童をめぐる登下校時の安全が問題になっている折ですから、保育時間の延長が考えられないものかどうかお尋ねしたいと思います。

北元青少年課長

保育時間の延長についてでございますが、現段階では時間延長という考えは持っておりません。さきに実施されました次世代育成支援対策行動計画ニーズ調査におきましても、学童保育の終了時間につきましては、午後5時が39.6%と、最も高い数字を示しております。今後は他市の状況とか、また社会状況の推移を見守ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

橋本紀子議員

校区の危険箇所というのは、それぞれ校区実態で違いがあると思うんですね。大変明るい場所であったり、さまざまだと思うんですけれども、ニーズがなければ現行でよいと思っただけなんですけれども、39.6%ですか、これが高い数字ではないというようなお答えだと思いますけれども、保育所でも早朝保育とか延長保育とかいったものがございまして、ニーズがあるところについて、弾力的に規則の運営とかそういったことができないか、もう1回重ねてお尋ねしたいと思います。

北元青少年課長

保育時間の延長に係る質問でございますが、指導員を通じましての保護者懇談会での保護者からの要望につきましては、5時以降の保育についての要望はそれほど声は多く上がってきておりません。しかしながら、今委員仰せのとおり、今日の児童を取り巻く社会的な状況を反映しまして、今後そうした声が高くなっていくことは十分考えられるところで

ございます。また今年度4月から10月までの月平均50数名の方が学童保育終了後ファミリー・サポート・センターを利用しているという結果も出ております。こうした状況は十分認識しているところでございますが、現在の学童保育室の体制のままで午後5時以降の保育を延長することは、規則の面であるとか、経費の面、また指導員の勤務条件の面で変更を生じるという新たな課題も生じてまいります。今後さらにきめ細かい保護者のニーズを把握しまして、課題の整理を行うとともに、社会状況を十分考慮しまして、今後の対応を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

橋本紀子議員

最後ちょっと要望をさせていただきたいと思いますが、今終了希望時間については、5時が39.6%、先ほど出ましたけれど、最高だと。したがって、余り高い数字ではないし、保護者からも大きな希望がそれほど出ていないということですが、この次世代育成の行動計画ニーズ調査というのは、終了希望時間について30分刻みで聞いておられるわけです。ずっと早い時間からゼロ回答が続きまして、3時半ぐらいから少しずつ2%前後の回答が返ってきておりますけれども、16時31分から17時が今言う39.6%ですね。17時1分から17時30分までが8.9%、これはそんなに多くないですが、17時31分から18時というのが28.7%です。やはりずっとゼロできている中で、山がこの時間帯に2つあるということですから、その数字をとって低い数字だというふうなことは言い切れないのではないかと、感想を持っております。それから、この調査ですけれども、この調査対象ですが、回答も1年生から6年生まで書かれておりますけれども、対象の保護者は、学童保育を利用していない人も混ぜて聞いているわけです。混ぜて聞いていて、その中で利用したいと思う人を取り出してさらにこれを聞いているわけですから、学童保育に行っておられる保護者100%のニーズが反映されているとはいいたいというふうに思うんです。もう1つ調査がありますけれど、さらにきのう見てみましたら、学童保育を今度は利用している保護者に対して、現在通っている学童保育室に対しての感想という項目が数字で上がっております。この項目で、学童保育に対する要望を聞いておられるんですが、その結果、利用できる学年を延長してほしいというのが69.8%、利用時間を延長してほしいというのが60.0%です。この数字はどういうことなのでしょうかということをお私思います。それから、また、ファミリー・サポート・センターの利用を挙げておられますが、この事業の10月現在の数字は、累計で111件活動件数があります。そのうちの51件が学童の送迎なんです。送迎だけではなくて、預かりも含めての数字ですけれども、111件分の51件が学童の送迎を含むということは、やはりニーズは低いことはないのではないかと、思うわけです。ですから、やはりその数字の受けとめ方はそれぞれあると思いますが、私はやっぱりこの保護者のニーズというのは高い。それから、近隣地域はどういう状態かといいますと、大体高槻と同じなんです。枚方の方は6時まで、四條畷も6時までということです。したがって、今確かに待機児童解

消ということが先決問題ということは私もわかりますし、ぜひそれについては取り組んでいただきたいんですけども、そのハード整備をするという面と、現存する学童保育の運営をさらにニーズに合わせて改善していくといいですか、見直していくということも大切な問題だと思いますから、ハードとソフトの両輪でこの学童保育の時間を含めた問題について、就労支援だけではなく、子どもの安全というところから早急に取り組んでいただきますように、本当に強くお願いをしまして、私の要望を終わらせていただきます。きるように、あわせてお願いをしたいというふうに思います。以上です。